

建設水道委員会会議録

1. 開催年月日

令和2年2月12日 開会 10時00分 閉会 11時50分

2. 開催場所

委員会室

3. 出席委員名

三宅文雄 多賀信祥 細羽敏彦 坊野公治
佐藤 豊

4. 欠席委員名

西田久志

5. その他の会議出席者

(1) 議長 坊野公治

(2) 副議長 大滝文則

(3) 事務局職員

事務局長 宮 良人 事務局次長 藤原靖和
主 査 柳本兼志

6. 傍聴者

(1) 一般 0名

(2) 報道 0名

7. 発言の概要

委員長（三宅文雄君） 皆さんおはようございます。

ただいまから建設水道委員会を開会いたします。

〈地元消費、地産地消について〉

委員長（三宅文雄君） 12月17日定例会終了後に開会いたしました建設水道委員会協議会において、地元消費、地産地消については、市民意識のアンケート調査実施後に委員会での今後の取り組み方を検討することにしておりました。そして、各委員の協力のもと、地域の特産品に関するアンケートを実施し、先般集計結果を各委員に送付いたしております。

それではまず、このアンケート集計結果を見て、地元地産、地元消費に関する市民意識のアンケートを終了することに関して、皆様のご意見をいただきたいと思います。

委員（坊野公治君） 今の話でしたら、アンケートの内容云々じゃなくて、アンケートは

今後とらないというか、このアンケートで対応しましょうという形でよろしいのでしょうか。

委員長（三宅文雄君） この市民意識のアンケートをとることが前提でございますので、これで終了したということでございますので、このアンケート集計結果を見ての皆様方のご意見を伺いたいというふうに考えております。今後の取り組みについては、またこの後の話し合いの中で進めていきたいというふうに考えております。

委員（坊野公治君） アンケートに関しては、私は少なかったんですけど、全体で271件ということである程度とれてますし、年齢層を見ても市民の声を聴く会とかの他のアンケートと違って40代の意見もかなりとられているということでもありますので、これをベースにやっていけばいいのかなあというふうには考えております。そうした中で、まだ全部読み込むことまではできてないんですが、比較的數字だけではなくて意見をかなり書いていただいておりますので、これは結構取り上げていくというか参考になる意見もかなり多くあるというふうには感じております。

委員（多賀信祥君） まず、このアンケートですが、委員会の中で地産地消、地元消費が井原市にとって重要だろうということで提案をさせていただきましたけど、市民意識がどうなのかというところで大きく市民の皆さんの考えを推しはかるという意味では十分な調査ができたんだと思いますので、意識調査については十分だと考えます。

委員（細羽敏彦君） 別に意見はないですよ。大体年寄りの方もおられると、坊野委員が言われたように、40代、50代が大分入っとるんで、いいんじゃないかと思えますけど。

委員長（三宅文雄君） 感想も含めて再度何かありませんか。先ほど坊野委員のほうから意見が多く出ていたということで、これは大変ありがたいことだなあというふうに思います。ただ、クエスチョンの質問に対する答えだけではなく、アンケートに協力いただいた方からのご意見というのは、今後参考にしていかなければならないかなというふうに思いました。

皆さんの中から余り意見が出ないようでございますので、この地産地消、地元消費、地域の特産品に関する建設水道委員会の今後の取り組みについて、こういった方向で進めていくかということを協議していきたいと思えます。これはフリートークで進めていければと思うんですけども、皆様方から忌憚のないご意見をお聞きしたいと思えます。

〈休憩中に今後の取り組みについて委員間で討議〉

委員長（三宅文雄君） 皆様方からるご意見をいただきました。それで、今後の進め方

といたしまして、こういった方向で進めていけばいいのかということで発表していただきたいと思います。

まず、最終的には着地点として理念条例に持っていこうというご意見がございました。その中で一つ貴重な意見をいただきました。

委員（佐藤 豊君） 私ども井原市議会の課題として、条例制定という課題に取り組むべきであるというようなご指摘も環太平洋大学の林准教授からいただいております。そうした意味で、この委員会としては地場の産業をどう活性化していくか、また地場の消費をどう進めていくかといった中で、やっぱりキャッチフレーズ、また条例において方向性というものを市民の人に理解していただくという一つの取り組みとしてデニム条例の制定というような取り組みもあっていいんじゃないかというようなことを考えております。そのことが今時点の案でありまして、今後どう変化するかわかりませんが、そういった思いを持ちながら進めていくということも一つ大切なことになるんじゃないかと思います。

それと含めて、地場のデニム以外の特産品というものをこれからどう発信また見出していくかというようなこともしていかなければならないというふうに思います。そういった意味で、商工会議所とかまちづくりの皆さんとか商店街各団体等々のご意見等を伺うことも必要だというふうに思いますし、また先駆的に地場のブランド化、商品のブランド化に取り組まれている他の自治体等にも視察に行かせていただいて、またいろんなことのチョイスをさせていただくということも大切なことではないかというふうに思いますので、今後そのようにこの委員会として議論を進めていけばいいんじゃないかというふうに思います。

委員長（三宅文雄君） ただいま佐藤委員のほうから今後の建設水道委員会としての取り組みの方向性についてご意見をいただきました。

ほかの委員の方、ご意見はありませんか。

〈なし〉

委員長（三宅文雄君） 先ほど佐藤委員からご発言いただきましたように、最終的な着地点としては理念条例を制定するという方向でいくということで、そこに行くまでの過程において先ほど意見交換会とか他市町の調査等の意見がございました。そういった方向で今後進めていきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

ほかに何か、このアンケート結果から見えてきたこと、今後の取り組み方について、皆様方からご意見があればお伺いします。

〈なし〉

委員長（三宅文雄君） 以上をもちまして建設水道委員会を閉会といたします。どうも皆様方にはご苦労さまでございました。